

デンカシンキが10月から稼働させる予定の太陽光発電パネル製造工場—松山市南吉田町



# 太陽光パネル製造へ

## デンカシンキ(松山)10月から

### 管理まで一貫体制構築

太陽光発電システム稼働するまで、製造から管理までの一貫体制構築を推進する。製造から管理までの一貫体制構築を推進する。製造から管理までの一貫体制構築を推進する。

販売・施工・メンテナンスを手掛けるデンカシンキ(松山市、木村賢太社長)が、太陽光発電パネルの製造に乗り出す。4月に松山市南吉田町に工場を購入し、10月から稼働させる予定の太陽光発電パネル製造工場—松山市南吉田町

約30人を正社員で新規雇用する。自社開発の太陽光発電パネルウィルパワ―は、パネルを形成する各部品にこだわりの高品質を実現し、少量の生産に柔軟に対応する。設備投資総額は約3億円で、生産能力は年間12万枚を計画する。設備投資総額は約3億円で、生産能力は年間12万枚を計画する。

製造工場の敷地面積は約1850平方メートル。現在、製造用機械の導入や調整を進めており、生産能力は年間12万枚を計画する。設備投資総額は約3億円で、生産能力は年間12万枚を計画する。

工後の管理までを担うパッケージ商品として売り出す考え。同社の施工実績は現在年約3000枚で、施工数の大幅増加を目指している。木村社長(左)は、一日本一小規模な太陽光発電パネルメーカーだが、大手に負けない高品質なパネルの製造を実現できるように、新規の雇用創出で地域活性化にも貢献したい」としている。

(門田龍二)

# 太陽光パネル製造の拡大

松山市南吉田町に建設中



地域経済

Line